

▶第108号【昭和39年3月1日発行】

交通安全を呼びかける記事。昭和30年代後半から40年代にかけて市内での乗用車の普及が爆発的に進み、市内の交通量も激増。市内で1カ月だけで4人が事故死するなど交通事故も増え、市報でも交通事故の実例紹介や『夜は白っぽい服装で』など交通安全が呼び掛けられました。

また、児童の約半数が、市内でも特に交通量の多い国道3号(1日約2万台)を横断しなければ通学できなかった基里小学校前には、1967(昭和42)年に念願の歩道橋が完成。この歩道橋は市内で初、県内でも二番目に架けられたものでした。



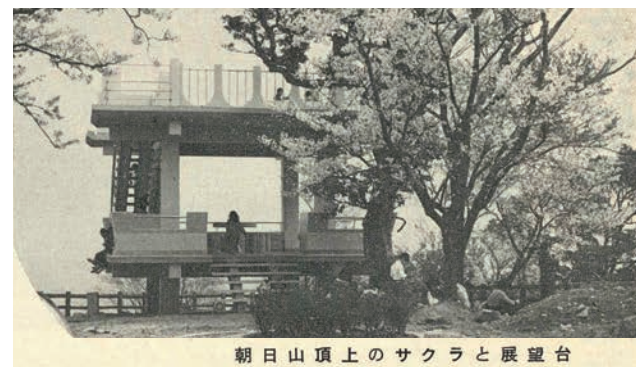
これで通学は安心
基里小前に歩道橋完成

◀第142号
【昭和42年3月10日発行】



平成31年2月に架け替えが完了した歩道橋「希里橋」

▼第139号【昭和41年11月10日発行】



◀第253号【昭和48年4月14日発行】

1966(昭和41)年11月に完成した九千部山の展望台。市内の多くの学校の校歌に登場し、市民に親しまれている『九千部』は、1964(昭和39)年に頂上にテレビ中継基地ができたほか、同年11月に鳥獣保護区に指定されました。展望台建設は『自然公園化計画』の初年度事業として実施され、付近約4ヘクタールはその後、市が国から借り受けた国設キャンプ場になり、駐車場や炊飯所なども設けられました。

また、『朝日山』の展望台は、1973(昭和48)年に完成。1969(昭和44)年度から4年かけて、園路や階段、こどもの遊び場などの公園整備が進められ、現在のような姿になりました。



◀第188号【昭和45年8月1日発行】

河内ダムで開催される花火大会の案内。1963(昭和38)年の設計から7年をかけて、1970(昭和45)年に河内ダムが完成し、同年6月に竣工式が行われました。夏の風物詩として市民に親しまれていた鳥栖青年会議所主催の『市民花火大会』は、3年目を迎えたこの年から河内ダムで開催されることに。花火の前には市内のバンドグループによる演奏合戦もあり、当日は西鉄バスが鳥栖駅前から無料のシャトルバスを運行し、賑わいました。

河内ダムで花火大会
8月4日 無料バスを運行

▼第197号【昭和45年12月15日発行】



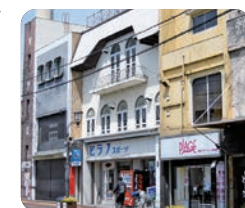
市内でできた農産物などの即売会。農業経営の安定と生活水準の向上を図るため、1968(昭和43)年4月に設立された『鳥栖基山農業協同組合』の広場で

開かれ、当時市内で生産が盛んだったみかんやお茶、しいたけ、玉ねぎ、卵などの食料品が多数出品。また、庭造りが流行っており、庭木だけでなく、鑑賞用の鯉や庭石も出品され、人気を呼びました。



◀第229号【昭和47年4月15日発行】

新しくなった本通り商店街の一部。本通筋商店街協同組合が、1971(昭和46)年から商店の近代化に取り組み、商店街約350メートルの両側を全面改築。続々と新店舗が完成しました。



現在の商店街

▼第268号【昭和48年12月1日発行】

1973(昭和48)年11月16日15時に開通した『九州縦貫自動車道』の最初の利用者(公門さん)。市内で飲食店を営む公門さんは「鳥栖のインターが開通するのに、よそもんが一番を取られちゃ、面目なかつたよ」と、開通の22日前から待機していたそうです。二番目の利用者は、公門さんの店で働く佐藤さんで3日間待機。

三番目は甘木市(現在の朝倉市)の男性で、遠くは大阪や鳥取などからも“一番乗りマニア”が訪れていたそうです。



●'64(S39) 市衛生処理場完成

●'65(S40) 第二代市長に安原謙市氏▼九州工業技術試験所(産総研)開所▼市消防庁舎落成

●'66(S41) 県東部工業用水道(第1期工事)完成▼鳥栖商工会館落成

●'67(S42) 公益質屋廃止▼市庁舎落成、各支所を廃止▼製造品出荷額が初の県内1位に

●'68(S43) 交通安全指導員が誕生▼市立図書館開館▼鳥栖基山農業協同組合設立▼市文化連盟発足

●'69(S44) 実験農場廃止▼特別養護老人ホーム『真心の園』開園

●'70(S45) 第三代市長に原忠實氏▼河内防災ダム完成

●'71(S46) 河内小学校廃校▼市文化財保護条例制定▼鳥栖地区広域市町村圏協議会発足

●'72(S47) 企業と初の公害防止協定調印▼市火葬場業務開始▼鳥栖筑紫野有料道路開通▼佐賀競馬場オープン▼鳥栖・三養基地区消防事務組合発足

●'73(S48) 市営採石場閉鎖▼市総合計画ができる▼市土地開発公社発足▼市の木が『モチノキ』に決まる▼九州縦貫自動車道・鳥栖一南関間開通、ジャンクション一部供用開始